脚本

「初恋ソネット」

作　ササキタツオ

《脚本家紹介》

ササキタツオ

日本シナリオ作家協会・準会員

日本劇作家協会・会員

受賞歴

歌舞伎脚本・奨励賞

舞台脚本コンクール２０２２佳作

代表作脚本

音声「恋が暴走する惑星」

「ソーイング・ラブストーリー」（Hulu）

映画「オトギネマ」「Distance」

舞台「追憶映画館」「群青デイズ」

など多数。

HP：https://story-office-2020.amebaownd.com/

演劇活動用 HP：

https://story-office-stage.amebaownd.com/

SNS・X：https://x.com/sasatatsu5

《あらすじ》　屋上庭園で、早坂風太（１１）は鈴木康介（２６）のマジックに夢中になり、迷子になる。そこへ現れた美容師の杉原みどり（２４）に助けられる風太。風太にとって運命の出会いだった。その日以来、風太はみどりの事が気になって仕方がない。

屋上庭園に入り浸るようになる風太は、みどりと再会する。みどりはシェイクスピアの《ソネット集》を読んでいた。風太はみどりから《ソネット集》を借りる。《ソネット集》の研究を始める風太。難しい。

学校で風太はシェイクスピアを知っているという同級生の後藤あかね（１１）と意気投合したり、高田源（１１）に冷やかされたりする。研究を続ける風太。

だが、屋上庭園で康介と再会した風太は、マジックをする康介がみどりの彼氏だったと知り、ショックを受けて寝込む。

それでも、みどりのことが好きな風太はみどりに告白するが「君の好きと私の好きは種

類が違う」と言われて失恋する。
そんな時、風太はあかねから告白される。戸惑う風太。この気持ちは一体何だろう？
考える風太は源に冷やかされ、大事にしていた《ソネット集》は雨ざらしにされる。
雨の中、本がグニャグニャになったことをみどりに謝りに行く風太は風邪をひく。
風太を見舞うみどりは新品の《ソネット集》を風太に渡す。
風太はそのお礼をあかねに相談する。あかねは風太に再び告白する。風太は悩む。
風太がお礼を届けに美容室に行くが、みどりは仕事を辞めていた。
ショックを受けた風太は源と派手に喧嘩をする。喧嘩両成敗。風太を叱る母から、みどりの伝言を聞いた風太は、屋上庭園へ走る。
みどりとの別れ。風太は《ソネット集》をみどりと交換する。風太は、去っていくみどりに手を振り続ける。
初恋は終わり、夏がやって来る。

《登場人物表》

早坂風太（１１）小学５年生。

杉原みどり（２４）美容師。

早坂順子（３７）　風太の母。

後藤あかね（１１）　風太の同級生。

高田源（１１）風太の同級生。

鈴木康介（２６）マジシャン。みどりの彼氏。

店員　　花屋の店員。

先生　　風太の小学校の先生。

美容師１　　みどりの勤務先の美容師。

○地方都市・全景

よく晴れた梅雨明けの午後。

○デパート・外観

○デパート・屋上・屋上庭園と広場

緑あふれる屋上庭園である。

人ごみの中、ボサボサ頭の少年、早坂風太（１１）がじっと見つめている。

その視線の先……広場のステージではマジシャンの鈴木康介（２６）がハンカチを使ったマジックを披露している。

マジックが成功する。

風太はじっとマジックを見ている。

拍手する観客たち。

風太は拍手しないで、じっとマジックを見ている。

観客の中でひときわ拍手をしている、杉原みどり（２４）。

みどりをふと見る風太。
風太を見るみどり、微笑む。
ドキリとして、顔を逸らす風太。

○夕焼け空（夕）
カラスの群れが飛んでいる。

○デパート・屋上・屋上庭園と広場（夕）
ひと気の少なくなった屋上庭園。
パラソルとテーブルとイスが並べられた休憩所の一角で、スケッチブックを抱きしめて、唇をかみしめている風太。
みどりがやってくる。

みどり「少年。さっきからずっと一人でそこにいるよね。もしかして君は、迷子かな？」
風太「違います……」
みどり「本当かな？」
風太「違います！」
風太、唇をかみしめる。
その目に涙がたまる。

風太「僕は観察しているのです」
みどり「観察？　それはどんな観察なのかな？」
風太「それは……」
スケッチブックを抱きしめる風太。
みどり「君は強い子だね。わかったよ！」
みどりは去っていく。
涙をぬぐう風太。
缶ジュースを両手に持って戻ってくるみどり。
みどり「少年！」
みどりをみる風太。
みどり「これ、あげる！」
みどり、風太に缶ジュースを投げる。
缶ジュースをキャッチする風太、驚いて、みどりをみる。
みどりは笑顔である。
風太「（ドキリとして）……」

○同・迷子センター（夕）

缶ジュースを握りしめた風太がみどりと一緒に待っている。
早坂順子（３７）が走ってやってくる。
順子「風太！」
缶を握りしめ、うつむく風太。
みどりが風太の肩に手を置く。
みどり「少年。よかったね」
うなずく風太。
順子「この度は本当に息子を保護してくださってありがとうございます」
みどり「いいえ」
順子「ちょっと目を離したすきにいなくなってしまって……全く……」
みどり「マジックを真剣に見てました」
順子「風太！　親切にしていただいたお礼。言った？」
風太「（照れながら）ありがと……」
順子「ありがとうございます、でしょ？」
風太「（お辞儀して）ありがとうございます」
笑顔のみどり、風太の頭をなでる。

風太、ちょっと居心地が悪いが、うなずく。少し恥ずかしい。

○風太の家・外観（夜）

○同・リビング（夜）

夕飯を食べている風太と順子。

順子「本当にお母さん心配したんだからね！」

風太「ごめんなさい……」

順子「これからは勝手な行動はしないように気を付ける事。わかった？」

うなずく風太、ご飯を食べる。

○同・風太の部屋（夜）

暗い部屋。

ベッドに横になっている風太。

勉強机の上には缶ジュースが置かれている。

缶を見て、目を閉じる風太。

○風太の夢
みどりが風太の頭をなでる。
みどりの顔、その微笑み。

○風太の家・風太の部屋（朝）
缶を手にしている風太。

○小学校・外観（日替わり）

○同・教室
窓側の席で、ぼんやりとしている風太。
その様子を後藤あかね（１１）が気にしている。
風太のところへ体格のいい男子・高田源（１１）がやってきて、いきなり風太の頭を叩く。
源「ボサボサ風太、何ぼーっとしてんだよ！女の事でも考えてたのか？」
風太「（真っ赤になって）ち、違うよ！」
源「女だ！　女！　女！」

風太、源に向かってタックルする。
だが、源に簡単に突き飛ばされる。
源「女！　女！　女！」
風太、源にもう一度、ぶつかっていく。
源は風太をつかまえると首を絞める。
あかねがやってくる。
あかね「ちょっと！　高田君、やめなよ」
源「女子は口出しすんな！」
あかね「先生呼ぶよ？」
源「うるせえな！」
風太をはなす源、立ち去る。
うずくまっている風太。
あかね「早坂君、大丈夫？」
風太「僕は、平気です……」
あかね「でも……」
風太「悔しいけど……。平気です……」

○同・美術教室・内
クラブ活動の時間である。
絵を描いている風太。

その絵はヘタクソである。
先生が覗き込む。
先生「風太君。今日は何を描いているのかな？」
風太「お姉さんです」
先生「お姉さん？」
風太「そうです」
はにかむ風太。

○デパート・外観

○同・屋上庭園
パラソルの下で本を読んでいるみどり。
やってくる風太、みどりを見つけて向かいに座る。
みどり「あら。少年。また迷子になったのか？」
風太「違います」
みどり「じゃあ、今日はどうしたの？」
風太「僕は、その……ここに来るのが好きなのです」
みどり「なるほど。実は、お姉さんもなのだ」

みどりはほほ笑んで本を閉じる。
風太「何を読んでいたのですか？」
みどり「シェイクスピアっていう、イギリスの作家の本だよ」
風太「しぇいくすぴあ……？」
みどり「少年には、少し難しいかな」
風太「僕は小学５年生です！」
みどり「じゃあ、読んでみる？」
みどりが本を差し出す。
風太は受け取りページをめくる。
風太「……（険しい顔をする）」
みどり「やっぱり難しかったかな？」
風太「そんなことはありません！　これは研究すれば、わかるはずです！」
みどり「それなら。その本、貸してあげるよ」
風太「えっ……！？」
みどり「ただし一つ条件があります。研究したら、私にその成果を教えてくれること！」
風太「……わかりました！」
風太、改めて本の表紙を見る。

『ソネット集』（シェイクスピア・著）
である。
みどり「そういえば、少年は髪の毛ボサボサだね？」
風太「そんなことは……」
みどり「私が切ってあげようか？」
風太「お姉さんが、ですか？」
みどり「私、こう見えて、美容師なんだよ。チョキチョキ」
みどりはピースサインを作ってハサミのように動かす。
みどり「今度、お店に遊びにおいで。格好よくしてあげるから」
と、名刺を風太に差し出すみどり。
風太「(名刺を見て)すぎはらみどりさん……」
みどり「少年。君はなんていうのかな？　名前」
風太「風太です！　早坂風太！」
みどり「それじゃあ、風太少年。研究の成果を期待しているぞ」

風太「頑張ります！」
笑顔のみどり。
はにかむ風太。

○風太の家・リビング（夜）
夕飯を食べる風太と順子。
順子「今日は遅かったわねえ。どこに行ってたの？」
風太「図書館だよ！　図書館」
夕飯をガッツいて食べる風太。

○同・家・風太の部屋（夜）
国語辞典を片手にシェイクスピアの『ソネット集』を読んで、難しい顔をしている風太。
本にみどりの名刺をはさむ。
なんだか照れくさい風太。
机の上のジュース缶を見つめる。

○小学校・教室（日替わり）

風太が席で『ソネット集』を難しい顔をして読んでいる。
あかねがやってくる。
あかね「早坂君。何読んでるの？」
風太「シェイクスピアです。研究しているのです」
あかね「その人なら知ってるよ」
風太「えっ。知ってるの？」
あかね「もちろんだよ！　お芝居書く人でしょ？　お母さんと見たことあるもん。世界で一番有名な作家でしょ！」
風太「そうなんだ……。でも、僕には難しくてよくわからないんだ。だから、研究している」
あかね「ふーん」
あかねと風太を見た源がやってくる。
源「ラブラブだな、お前ら！」
クラスの生徒たちの視線が風太とあかねに集まる。
困惑する風太。

あかね「(堂々として)ラブラブだよ。悪い？」
ひるむ源。
源「な、なんだよ。お前らラブラブなのかよ」
走り去っていく源。
風太「(気まずく)あの……後藤さん……」
あかね「いまのはウソ！　むかついたから」

○同・図書室
書棚に並ぶシェイクスピアの本を手に取るあかね。
テーブル席では風太が『ソネット集』を読んでいる。

○通学路
並んで歩く風太と茜
風太「やっぱり僕にはむずかしいな」
あかね「実は私もよくわかんない」
ほほ笑む二人。
風太「じゃあ、また明日！」
風太は走って去っていく。

遠くなる風太を見送るあかね。

○デパート・外観（夕）

○同・屋上庭園（夕）

あたりを見回す風太。

みどりの姿はない。

風太はパラソルのテーブル席でスケッチブックを広げて絵を描き始める。

ステージでは康介がマジックを披露している。

観客は少ない。

康介を見る風太、康介と目が合う。

康介が微笑みかける。

風太、目を逸らす。

○風太の家・風太の部屋（夜）

本を読む風太。

傍らにはスケッチブックが広げられている。

スケッチブックに描かれているのは、
みどりの姿。ヘタクソである。

○月夜（夜）

○デパート・屋上庭園（日替わり）
人のまばらな屋上庭園。
ステージでのマジックを終える康介。
パラソルのテーブル席で絵を描いて
いる風太。
康介が風太のところにやって来る。
慌ててスケッチブックを閉じる風太。
康介「少年。最近、よく会うなあ」
風太「……」
康介「別に怪しいものじゃないよ！　って言
ったら余計怪しいか！　マジシャン」
ハンカチマジックを披露する康介。
風太、無視して、鞄から本を出す。
康介「おっ！　少年にしては難しい本読むん
だなー。感心、感心」

風太「研究しているのです」
康介「研究？」
風太「約束したので」
康介「なるほど。大事な約束ってわけか」
風太「……」
康介「お兄さんにわからないことがあったら
　なんでも質問してもいいぞ？」
風太「それだと研究にならないので、ズルは
　ダメです」
康介「おっと、厳しいね！」
風太「研究ですから」
康介「わかった。頑張るんだぞ！　少年！」
　微笑ましく風太を見る康介。
　風太、どこか、居心地が悪い。

○青空に入道雲（日替わり）

○花屋・店先
　花を見ている風太。
　店員がやって来る。

店員「あら、早坂さんとこの」
風太「あの！　バラの花をください！」
店員「えっ！？」
風太「赤いバラの花を、ください！」

○美容室・外観
風太が一輪の赤いバラの花を持ってやってくる。

○同・店内
鏡の前の椅子に座る風太、その手には赤いバラの花がにぎられている。
みどりがやってくる。
みどり「風太少年。元気だった？」
風太「はい！　お姉さんは？」
みどり「私は元気だよ」
風太「あの！　これ！」
バラの花を差し出す風太。
みどり「あら！　素敵。どうしたの？」
風太「研究したので……シェイクスピアのソ

ネットにはバラがよく出て来るので……」
みどり「そおか！　なるほどねっ！」
風太「これはお姉さんに……！」
みどり「えっ！　私に？　ありがとう！」
風太「い、いえ……」
みどり「（バラの花を受け取って）ということは、研究は順調に進んでいるのかな？」
風太「難しいです。でも頑張っています。お芝居を書く人だったのですね。調べました」
みどり「そうだよ。よく研究しているようだね。偉いぞ。じゃあ、今日は君を特別格好よくしてあげよう」
風太「お、お願いします」
みどり「任せなさい！」
風太の髪の毛に霧吹きをかけるみどり。
×　×　×
風太の髪を切っていくみどり。
風太はじっとみどりの真剣なまなざしを見つめる。
×　×　×

風太の髪がサッパリ。男前になった。
みどり「どうだろうか？　少年！」
風太「は、はい。いいです。いいと思います」
みどり「よかった！」
レジへ移動する、風太とみどり。
風太「あの！　この本！　返さないと」
『ソネット集』をみどりに差し出す風太。
みどり「もういいの？」
風太「それは……」
みどり「まだ借りててもいいよ？」
風太「いいんですか！？」
みどり「研究したいでしょ？」
風太「はい！」
みどり「よし！　思う存分研究しなさい」
笑顔のみどり。
風太はなんだか恥ずかしい。

○風太の家・外観（夜）

○同・洗面所（夜）

風太、自分の髪型を見る。

そこへ順子がやってくる。

順子「いつも髪切るの嫌がるのにねー」

風太、髪型を気にする。

順子「何か気になるの？」

風太「別に」

順子「お姉さん、上手ね。別人みたい。格好いいわよ」

順子、去る。

風太、髪の毛を触って、笑顔になる。

○小学校・外観（日替わり）

○同・教室

風太が『ソネット集』を読んでいる。

源が後ろから風太をどつく。

風太「な、なにするんだ」

源「風太のクセに格好つけてるんじゃねえよ！」

風太「別に僕は！」
源「ボサボサ風太にしてやるよ！」
源、風太の頭をグチャグチャにする。
風太「や、やめろよ！」
風太は抵抗しようとするが、源には勝てない。
源「生意気なんだよ！」
あかねがやってくる。
あかね「ちょっと。高田君！　やめなさいよ！」
源「女子は黙ってろ！」
あかね「（叫ぶ）先生！　先生！」
源「ずりーぞ！　くそう！」
逃げる源。
頭がボサボサになってしまった風太。
あかね「早坂君、大丈夫？」
風太「……あ、ありがとう」
あかね「よかった」

○同・図書室
風太とあかね。

大きなテーブルに向かい合って座って
本を読んでいる。
風太をちらりと見る、あかね。

○道路

並んで歩く、風太とあかね。

あかね「研究はどう？」

風太「進んだよ。でも、恋って難しいね。難しくて僕にはよくわからない」

あかね「簡単だよ」

風太「えっ？」

あかね「早坂君！」

風太「何？」

あかね「私ね……ずっと気になってたんだ。私、早坂君の事、好きかも！」

風太「えっ……！　ぼ、僕は……」

あかね「なんてウソ！　びっくりした！？」

風太「後藤さんは、ウソがうまいから……」

微笑むあかね。

あかね「恋って、こんな感じなんじゃないか

な？　ホントみたいなウソ」
風太「……難しいな」
あかね「そうかな？　じゃあ、また明日ね！」
駆け去っていくあかね。
手を振り見送る風太。

○美容室の向かいの道路（夕）
歩いてくる風太。
道路の向こう側に美容室が見える。
と、お店からみどりとスーツ姿の康介が一緒に出てくる。
風太がみどりに声を掛けようとするが、躊躇する。
みどりと康介が手をつないだのが見えたからだ。
風太「……！」
みどりは笑顔で康介と共にそのまま去っていく……。
風太はみどりの後を走って追いかけた。
風太「お姉さん！」

振り返るみどりと康介。
みどり「あら。風太少年じゃないか」
風太「お姉さん、この人は……？」
みどり「私の彼氏だよ」
風太「えっ……！？」
康介「あっ！　君が噂のシェイクスピア研究少年か。髪切ったから、一瞬わからなかったけど、この前の少年かー」
みどり「私がカットしたんですけど？」
康介「どおりで。男前にしてもらったな」
風太「……」
康介「少年。改めてよろしく」
差し出された康介の手を風太はとれない。
康介「覚えてない？　よくデパートの屋上庭園でマジックやってる」
風太「知ってます！」
康介「（みどりに）この前、友達になったんだよ。なっ、少年！」
風太「風太です！」

みどり「そうだったんだね」
康介「そうそう」
風太「（苛立ちを募らせて）……」
風太は、思わず走ってその場を去る。

○風太の家・風太の部屋（は夜）
名刺を丸めてゴミ箱へ捨てる風太。
机の上のジュース缶もゴミ箱へ捨てる。
ゴミ箱を睨む風太。

○青空（日替わり）

○風太の家・風太の部屋
布団に入っている風太。
順子がやってくる。
順子「風太。調子はどう？」
風太「（布団をかぶって）おなか痛い……」
順子「病院は？　本当に行かないの？」
風太「寝るからいい」
順子「風太……じゃあ、もう少し様子みてね。

お母さん、ちょっと買い物に出かけるから。
ゆっくり休んでいるのよ」
順子、去る。
布団をから顔を出す風太、ため息をついてゴミ箱を見る。
風太「……」
ゴミ箱に駆け寄ると、しわくちゃになった名刺を取り出して伸ばす。

○スケッチブックに描かれたみどりの肖像画

○風太の家・風太の部屋
風太、意を決して、スケッチブックと本を鞄に入れて、部屋を出る。

○同・外観
走り出てくる風太。

○道路
走る風太。

○青空

○デパート・外観

○同・屋上庭園

息を切らしてやってくる風太、辺りを見回す。

みどりも康介の姿もない。

風太はパラソルの席に座って本を取り出して、たどたどしく読み始める。

風太『『君を夏の一日と比べてみようか？　だが君の方がずっと美しく温和だ』……やっぱり難しい……」

本を閉じる風太、空を見る。

流れていく雲……。

みどりの声「風太少年！」

ふりかえる風太。

笑顔のみどりがそこにいた。

みどり「風太少年、学校はどうしたの？」

風太「今日はお休みです……」
みどり「じゃあ、私とおんなじだ」
風太「お姉さんも……？」
みどり「お仕事お休みなの」
風太の向かいに座るみどり。
視線をそらす風太。
みどりは風太を見て、
みどり「研究は進んでる？」
風太「少しだけ進みました。わからないこともまだたくさんあるけど……」
みどり「それは進歩だね。えらいぞ！」
風太「（照れくさい）……」
みどり「例えばどんなことがわからない？」
風太「ええと……これです。（本のページを開いて）夏の日と比べて、あったかい、って、どういうことなのですか……？」
みどり「なるほどね。これはだね、夏の日みたいに、あなたを想うと心があたたかくなる、ってところかな」
風太「僕には……よくわかりません」

みどり「お！　わからないことが出てきたということは、ちゃんと研究している証拠だね。偉いぞ」
風太「そうでしょうか……」
みどり「自信を持って探求せよ」
みどりはカバンから本を取り出して、読み始める。
みどり「私も研究するとしよう」
風太「僕も！」
みどりを見る風太、本を読み始める。

○夕焼け空（夕）

○デパート・屋上庭園（夕）
パラソルの席で、座って本を読んでいる、みどりと風太。
みどり「そろそろ時間かな」
風太「お姉さんはどこか行くんですか？」
みどり「待ち合わせしているのだ」
風太「それは……お兄さんと、ですか？」

みどり「そうだよ」
風太「……」
みどり「遅いなあ」
風太「お姉さん！」
みどり「どうしたのだ？　風太少年」
風太「……す、すきです！」
みどり「ありがとね。私も好きだぞ、少年！」
風太「（複雑だが、赤くなる）……」
　やってくる康介。
康介「みどり！　お待たせ」
みどり「康介。おそい」
康介「あれ？　少年も一緒だったの？」
風太「……」
みどり「一緒に研究してたんだよね」
　みどりが風太に微笑む。
　風太、下を向く。
　康介、少し戸惑って。
康介「そおか。研究の最中に、ごめんな」
風太「い、いえ……」
みどり「それじゃあ、風太少年。続きはまた

今度だ。バイバイ」
手を振って、去っていくみどりと康介。
風太は立ち上がると、後を追いかけた。
風太「待ってください！」
風太、みどりの手をとる。
みどり「どうした？　少年」
風太「その……」
康介「（察して）俺、先歩いてるよ」
みどり「うん」
康介、去る。
みどり「どうしたんだ？　少年」
風太「僕は、お姉さんが好きなのです」
みどり「うん」
風太「お姉さんも僕の事が好きだと言いました！」
みどり「うん」
風太「でも……」
みどり「そうか。君は難しい問題に直面しているな。風太少年。私の好きと、君の好きはどうやら少し違う種類のようだ」

風太「……好きに種類があるのですか？」
みどり「そうだよ。まだまだ研究が足りないとみえる」
風太「……」
風太の頭をなでるみどり。
みどり「でも、お姉さんは君に好きと言ってもらえてすごく嬉しいぞ」
みどり、微笑み、風太の手をギュッと握って、はなし、去っていく。
風太、じっとみどりの去っていく姿を見つめる。
風太「……」

○曇り空（日替わり）
ゴロゴロ鳴っている空。

○小学校・外観
雨の日である。

○同・教室

風太が席で本を読んでいる。
そこへ源がやってきて、風太の読んでいる本を取り上げる。
風太「か、返せよ！」
源「うわっ、なんだこれ。漢字ばっかじゃん！
キモーっ！」
風太「か、返せって！」
風太は源から本を取り返そうとするが、
源の方が大きくて強い。
全く勝負にならない。
つきとばされる風太。
源「これは没収だな！」
風太「返せっ！」
源にしがみつく風太。
源「しつこいな！」
風太「その本は、僕の、大事なものなんだ！」
源「そんなに返してほしかったらくれてやるよ！」
源、本を窓の外へ投げ捨てる。
源「ほら！　行ったぞー」

笑う源。
座り込む風太、悔しい。
去っていく源。
雨がふる窓の外を見つめる風太。

○同・校舎・外
雨の中。
風太が傘もささずに本を探している。
ずぶぬれである。
そこへ傘を差したあかねがやってくる。

あかね「早坂君！　何してるの？」
風太「大丈夫です！」
あかね「風邪ひくよ！　せっかく元気になったのに」
風太「あの本は大事なものなんです！」
あかね「本？」
風太「シェイクスピアの本です。高田君に窓から捨てられたのです」
あかね「ひどい……」

風太「僕はあの本を見つけないといけないんです！」
探し続ける風太。
あかね「……私も！　私も手伝うよ！」
あかね、傘を置いて、風太と一緒に探し始める。
あかねを見る風太。
あかね「一緒に探せば、そのぶん濡れなくて済むよ」
風太「でも……」
あかね「いいから」
茂みの中、本を探す風太とあかね。
容赦なく雨は降る。
探す二人。
雨の中、風太が本を見つける。
風太「あった！　あったよ！」
あかね「よかった！」
あかね、傘を取り、風太と一緒に入る。
あかね「見つかってよかったね！」
風太「ありがと。大切なものだから」

あかね「私、早坂君の事が好き！」
風太「またウソですか？」
あかね「ウソみたいなホント！」
風太「え……」
あかね「バイバイ！」
あかね、かけ去る。
立ち尽くす、風太。

○美容室・外観（夕）
雨の中、風太がやってくる。
服はずぶぬれのままである。

○同・店内（夕）
バスタオルを頭にかぶった風太。
みどりがやってくる。
みどり「風太少年。風邪引いてしまうぞ？」
風太は雨でグニャグニャになった本を
取り出す。
風太「これ……。ごめんなさい……」
みどり「どうしたの？」

風太「……」
みどり「まずはドライヤーで乾かしてみようか？　だから、めそめそしない！」
風太「してません……！」
笑顔のみどり。
風太はうつむく。
×　×　×
みどりにドライヤーで髪を乾かしてもらう風太。

○風太の家・外観（夕）
みどりと並んで傘をさして歩いてく風太。

○風太の家・玄関（夕）
順子がみどりに頭を下げる。
順子「わざわざありがとうございます」
みどり「いえ。今日は仕事も終わったところだったので。それでは。少年。元気だせ」
順子「風太！　お礼は？」

風太「お姉さん……ありがとうございます」
みどりほほ笑んで、雨の中を去っていく……。
見送る風太、クシャミをする。

○青空に雲が流れている（日替わり）

○風太の家・風太の部屋
毛布にくるまっている風太。
頭に氷枕。
順子が部屋に入って来る。

順子「風太、起きられる？」
風太「うん……」
順子「美容室のお姉さんがお見舞いに来てくださったわよ」
風太「えっ！？」
起き上がる風太。
順子に促されて入って来るみどり。
みどり「やあ。少年。風邪引いちゃったんだって？　心配したぞ」

順子、去る。
みどり「どれどれ？」
みどり、風太の頭を手で触る。
風太「（照れて）風邪が移ります」
みどり「大丈夫。お姉さんは強いから」
風太「……」
横になる風太。
みどり「そうだ。お見舞いがあるんだ。喜んでくれるといいんだけど」
と、みどりは本を取り出す。
それは新しい『ソネット集』だ。
風太「これ……」
みどり「君の研究用」
みどりから本を受け取る風太。
風太「ありがとうございます。でも……前のは……？」
みどり「気にしないで。あれは私が大切に使うから」
風太「僕がもっと強かったら……」
みどり「ん？　どうした？」

風太「な、なんでもありません！」
みどり「それじゃあ、風太少年。療養して早く元気になるんだぞ」
風太の頭を撫でる、みどり。
風太「はい！」
みどり、笑顔で去っていく。
風太、手にした新しい本を見つめる。

○小学校・外観（日替わり）

○同・教室
風太があかねの席にやって来る。
風太「あの！　後藤さん！」
あかね「どうしたの？」
風太「その……相談したいことがありまして」

○洋菓子店・外観
やってくる風太とあかね。

○同・店内

ショーケースに並んだケーキたち。
風太「うわー！」
あかね「やっぱり年上の人にお礼するんだから、ケーキじゃなくっちゃね」
風太「で、でも……後藤さん、値段が」
あかね「気にしたらダメだよ」
風太「でも……」
財布を見る風太。
あかね「私のおすすめはね、このカヌレっていうお菓子かな」
風太「カヌレ？」
あかね「外はカリカリで中はモチモチ―っとしているお菓子なんだよ。とってもおいしいんだから」
カヌレを見つめる風太。
風太「どんな味がするの？」
あかね「大人の味、かな」
風太「わかった。これにするよ。なんだか変わったお菓子だね」
あかね「絶対喜んでくれるって！」

風太「うん！」
満足そうにうなずく風太。
その横顔を少し切なくあかねが見る。

○道路（夕）
あかねと、洋菓子店の袋を持って歩く風太。
風太「今日はありがとう」
あかね「ううん。早坂君。その人の事、好きなんでしょ？」
風太「えっ……」
あかね「隠したってわかるよ」
風太「……違います。お姉さんは、こう、なんていうか、好きだけど、好きの意味が違うんです！」
あかね「難しい事言うね」
風太「これは実に難しい問題なのです。シェイクスピアも書いています。世界にはいろんな《好き》が存在しているのです」
あかね「私は早坂君が好き」

風太「えっ！？　また、ウソですか？」
あかね「ウソかホントか。どの好きかは早坂君が考えて。それじゃあ！」
手を振り去っていくあかね。
風太、あかねを見送る。
風太「……」

○青空に入道雲（日替わり）

○美容室・外観
やってくる風太。
その手には洋菓子店の袋を持っている。

○同・店内
美容師たちの困惑した表情。
持っていた袋を落とす風太。
風太「お姉さんはもういないって……本当なんですか！？」
美容師１「ごめんね……みどりさん、昨日で

最後だったんだよ」
風太「（ショックで）……」
風太、店を飛び出す。

○道
走っていく風太、転ぶ。
風太「（涙が入り混じって）うううう……」

○風太の家・風太の部屋（夜）
毛布にくるまって泣く風太。
毛布から這い出て、枕元の本を開く。
風太「……」

○イメージ・屋上庭園
向かい合っている風太とみどり。
みどり『君を夏の一日と比べてみようか？
だが君の方がずっと美しく温和だ』
風太「お姉さん！」
みどり「夏よりも、君の方が、あったかい」
みどりの笑顔は輝いてみえる。

○小学校・外観（日替わり）

○同・教室

風太の席にあかねがやってくる。

あかね「この前の、渡せた？」

風太「う、うん……」

あかね「そっか。早坂君の気持ち、届くといいね」

風太「ありがと……あの、この前の、好きについてなんですけど」

あかね「ん？」

風太「よくわからなくて……」

そこへ源がやってくる。

源「お前ら、またいちゃついて、本当ラブラブだな。熱いね！　熱いね！」

あかね「高田君、うるさい」

源「お前らこの前一緒に帰ったんだろ？　ラブラブ夫婦！」

風太「（うつむく）……」

あかね「一緒に帰ったのはホントだけど……」
源「お！　あついねーやけどするぞー」
風太「夫婦じゃない！　高田君！　違うよ！」
源「ラブラブー！　ラブラブー！」
風太、席を立って、源にタックルする。
源に軽く突き飛ばされる風太。
あかね「早坂君！」
風太「くそう！」
風太、もう一度、起き上がって、源に向かっていく。
再び突き飛ばされた風太の上に源がのっかって、風太を殴る。
源「風太の癖に生意気なんだよ！」
風太、叫び、源を押しのける。
風太は教室においてある花瓶を手にすると、源に向かって投げる。
だが、源は驚いて花瓶をかわす。
床に花瓶が落ちて粉々に割れる。
クラスメイト達から悲鳴があがる。
にらみ合う風太と源。

○同・会議室

深刻そうな表情の順子と下を向いた風太が並んで座っている。

向かいに先生が座っている。

じっとうつむいて黙っている風太。

唇をかみしめる。

順子「このたびはうちの息子が……本当に何と言っていいか……」

先生「まあ、喧嘩両成敗と言うことで」

順子「よくしかって言い聞かせます」

先生「二度とこんなことが無いようにだけ。しっかり教育願います」

順子「あの……相手のお子さんは……？」

先生「それは心配ありませんので」

順子「そうですか……」

順子、風太を見る。

風太はうつむいている。

○道路

順子に連れられ、風太がとぼとぼ歩いている。

順子「風太……。相手の子にはちゃんと謝ったの？」

風太「悪いのは高田君だよ」

順子「人のせいにしたらダメでしょ？　喧嘩したらどっちも悪いのよ」

風太「でも……」

順子「でもも、だってもない」

風太「……」

順子「本当に心配したんだから」

そこへあかねがやってくる。

あかね「早坂くん！」

風太「後藤さん……」

あかね「（順子に）あの、早坂君は悪くないんです。早坂君は私を守ろうとしてくれただけなんです！」

順子「えっ……！？」

風太「……」

あかね「し、失礼します」

駆け去っていくあかね。

順子「風太……。守ってあげたの？」

風太「……」

風太、去っていくあかねを見送る。

○風太の家・玄関

帰ってきた風太と順子。

順子「よく反省した？」

風太「……もうしない」

順子「よろしい。風太、お姉さんから電話があったわよ」

風太「え……！？　お姉さんから！？」

順子「夕方、屋上庭園で待ってるって」

風太「僕……！」

風太、鞄から本を取り出して、飛び出していく。

○道

風太、走る！

○デパート・屋上庭園
パラソルのテーブル席でよれよれになった本を読んでいるみどり。
やってくる風太。
風太「みどりお姉さん！」
みどり「風太少年。待っていたぞ」
みどりの向かいに座る風太。
風太「お姉さん……美容室、辞めたって……」
みどり「ごめんね。急に引っ越しが決まったの……」
みどりの左手の薬指には指輪が光る。
みどり「東京に行くことになったんだ」
風太「東京……」
みどり「うん。新しい土地で、お姉さん頑張るんだ。あっ！　カヌレ美味しかったぞ。ありがと」
風太「……遠いです」
みどり「ん？」
風太「……いやです。僕はお姉さんが遠くに行くの、嫌です！」

みどり「私も。さびしいよ。また君の髪を切
ってあげたかったのに残念だ」
風太「……」
みどり「泣くな、少年」
風太「泣いてません！　夏の汗です。走って
きたから、とても暑いのです！」
みどり「なるほどね」
風太「本……」
みどり「えっ？」
風太「交換しましょう！」
みどり「でも、私のこれ、ヨレヨレのだよ？」
風太「僕にはこの新しい本より、よれよれの
本の方が、お姉さんに見えます」
みどり「そうか。わかった。じゃあ、君の持
っている本を私は君だと思うことにする」
みどりほほ笑んで、本を差し出す。
みどり「お別れに、本の交換だ」
本を交換する風太とみどり。
それぞれの手にシェイクスピアのソネ
ット集。

みどり「私も研究続けるから。風太少年も研究続けてほしいな」
本を受け取った風太、みどりを見て、
風太「僕が世界で一番の研究者になります！」
みどり「よく言った。偉いぞ、少年！」
風太の頭をなでるみどり。
頬を腕でぬぐう風太。
みどり「よし！　それじゃあ、一緒にソフトクリームでも食べようか」
×　×　×
みどりと一緒にソフトクリームを食べる風太。

○夕暮れ空（夕）

○道路（夕）
みどりと一緒に歩く風太、夕焼けを見る。
風太、みどりを見る。
風太「お姉さん……」

みどり「なんだい？　少年」
風太「僕も大きくなったら、お姉さんみたいにいろんな好きの意味がわかるでしょうか」
みどり「わかるよ。絶対わかる」
風太の頭をなでるみどり。
笑顔を作る風太、みどりと握手する。
みどり「それじゃあ、風太少年。ここで。さよならだ！」
風太「お姉さん……。さようなら……」
手をふり去っていくみどり。
見送る風太、唇をぎゅっとかみしめる。
そして、思いっきり手を振る。
みどりが見えなくなるまで、手を振り続ける風太。

○風太の家・風太の部屋（日替わり）
机の上に置かれたジュースの缶。
しわしわの名刺。
その名刺を『ソネット集』に挟んで鞄

にしまう風太。

○道路

家から出てくる風太。
太陽のまばゆさに目を細める。
手を太陽にかざす風太。
夏の暑さを感じて。
そして、駆けて行く……。

○青空にそびえ立つ入道雲
夏が来る。

（終）

《引用》

■対訳・シェイクスピア詩集　岩波文庫
p２３『ソネット集　１８番』